

平成 21 年度事業報告書

平成 22 年 5 月 28 日

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

平成 21 年度 事業報告

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

1. 協会運営事業

1-1. 一般社団法人移行への対応

当協会は、平成 20 年 12 月 1 日に施行された「一般社団法人・一般財団法人に関する法律」等公益法人制度改革関連法改正に準拠して、理事及び理事会等の決議機関の一部変更、それに伴う定款の変更、関係規程類の制定を行い、平成 21 年 5 月 29 日第 1 回総会において、中間法人から一般社団法人への移行を行った。本年度は、一般社団法人移行初年度として、新体制の下で総会、理事会、運営役員会等を次のとおり開催し、当協会の運営に関する重要事項を審議決定し、CEATEC JAPAN をはじめとする展示会事業を実施した。

1-2. 総会

(1) 平成 21 年 5 月 29 日 第 1 回通常総会（有限責任中間法人第 3 回通常総会）を開催し、次の議案を議決した。

- 議案
- 1) 平成 20 年度事業報告及び決算承認の件
 - 2) 定款変更承認の件
 - 3) 関係規程（案）承認の件
 - 4) 平成 21 年度事業計画（案）及び収支予算（案）承認の件
 - 5) 役員選任の件

(2) 平成 21 年 10 月 1 日 第 2 回書面総会を開催し、次の議案を議決した。

- 議案
- 1) 理事選任の件
 - 2) 定款変更の件
 - 3) 監事増員の件

1-3. 理事会

(1) 平成 21 年 5 月 19 日 第 7 回理事会（有限責任中間法人）を開催し、次の審議事項を承認した。

- 審議事項
- 1) 一般社団法人移行に対応するための関連事項の件
 - ① 理事及び理事会等決議機関の一部変更の件
 - ② 定款変更の件
 - ③ 規程類制定の件
 - 2) 第 3 回通常総会に附議する議案の件

(2) 平成 21 年 6 月 1 日 第 1 回書面理事会を開催し、次の審議事項を承認した。

- 審議事項
- 1) 代表理事・執行理事の選任の件
 - 2) 役職役員の選任の件
 - 3) 事務局長の委嘱の件

- (3) 平成 21 年 9 月 18 日 第 2 回書面理事会を開催し、次の審議事項を承認した。
審議事項 1) 理事選任の件
2) 監事増員の件
3) 定款変更の件
4) 会員入会の件
- (4) 平成 21 年 11 月 10 日 第 3 回理事会を開催し、次の審議事項を承認した。
審議事項 1) 予算の修正の件
2) 事務所移転の件
- (5) 平成 22 年 3 月 25 日 第 4 回理事会を開催し、次の審議事項を承認した。
審議事項 1) 平成 22 年度事業計画（案）の件
2) 平成 22 年度収支予算（案）の件
3) 会員入会の件

1-4. 運営役員会

- (1) 平成 21 年 8 月 27 日 第 1 回運営役員会を開催し、次の事項を審議した。
運営役員会規則の制定、正副委員長の選任、第 2 回書面理事会の議案、第 2 回書面総会に附議する議案、第 3 回理事会の開催等
- (2) 平成 21 年 9 月 18 日 第 2 回運営役員会を開催し、次の事項を審議した。
第 3 回理事会議案等
- (3) 平成 21 年 10 月 29 日 第 3 回運営役員会を開催し、次の事項を審議した。
第 3 回理事会議案、事務所移転等
- (4) 平成 22 年 2 月 4 日 第 4 回運営役員会を開催し、次の事項を審議した。
平成 22 年度事業計画（案）、収支予算（案）等
- (5) 平成 22 年 3 月 18 日 第 5 回運営役員会を開催し、次の事項を審議した。
平成 22 年度事業計画（案）、収支予算（案）等第 4 回理事会資料

1-5. 会員の状況

年度内における会員の入会は 4 社、退会は 7 社で、21 年度末における会員数は、合計 90 社となった。

2. 展示会事業

2-1. 「最先端 IT・エレクトロニクス総合展 CEATEC JAPAN 2009」

- (1) CEATEC JAPAN 2009 は、開催テーマ「デジタルコンバージェンスが明日をつくる、未来へつなぐ。」の下、2009 年 10 月 6 日（火）より 10 月 10 日（土）までの 5 日間、千葉市・幕張メッセにおいて開催した。また、今年度は、本展示会の開催 10 周年にあたり、主催 3 団体の 10 周年記念メッセージとして、「Challenge！豊かな暮らしと低炭

素社会への挑戦」を掲げ、各種施策を実行した。

- (2) CEATEC JAPAN 2009 は、主催 3 団体で構成する「実施協議会」のもと、主催 3 団体の主要会員企業で構成する「実行委員会」が中心となって本展示会の実施計画が審議・立案され、本協会に「CEATEC JAPAN 運営事務局」を設置し運営した。
- (3) 今年度は、昨年来の経済環境の影響から総じて展示会事業の運営は難しく、特に IT・エレクトロニクス産業関連については厳しい環境下にあることから、年度当初から開催規模縮小を余儀なくされることが予想された。最終的には、出展者数計 590 社、出展小間数計 2,123 小間となり、対前年比で出展者数 73.3%、出展小間数 68.0%となった。
- (4) これらの状況を受け、開催準備にあたっての事業活動の主な方針及び対策として、以下に注力することとした。
 - 1) 使用会場を昨年と同様の幕張メッセ 1 ホールから 8 ホールとし、展示会全体の大幅規模縮小等による IT・エレクトロニクス産業に対するマイナスイメージ化を払拭する。
 - 2) 今年度に限り、一次二次の二段階申込期限を取りやめ一元化するなど、出展者の出展検討の便宜を図る。
 - 3) 出展者数減による来場者数の低下を極力防ぐため、関係各方面への来場者誘致の働きかけやビジネス目的来場者の誘致の強化を図る。
 - 4) 経費節減や展示会運営の効率化による支出抑制に最大限努め、事業予算規模の減少による開催・運営へのマイナス影響を最小限とする。
 - 5) 新型インフルエンザ等の国の流行予測に対して、来場者へのマスクの無料配布、出展者への対策指導等のリスクマネジメントを図る。
- (5) 開催前日の 10 月 5 日（月）に開催した記者会見には、163 名の報道関係者が出席した。会期中、会場に詰めかけたマスコミ関係者は、2,263 名となり、CEATEC JAPAN に関する情報が国内外のテレビ、新聞、雑誌、Website 等に多数採り上げられた。
- (6) 開催初日の 10 月 6 日（火）午前 10 時から正午までの間、多くの報道関係者及び特別招待者を対象に、快適でゆったりとした環境の中で CEATEC JAPAN の見学・取材の場を提供するとともに、通常集まる機会の少ない VIP の方々に情報交流を深める場を提供することができた。なお、会期を通じて 643 名の VIP 登録による来場があった。
- (7) 開催初日 10 月 6 日の正午からホテルニューオータニ幕張にて開催したオープニングレセプションは、CEATEC JAPAN 実施協議会・大坪文雄会長（JEITA 会長）による主催者代表挨拶の後、増子輝彦 経済産業副大臣、長谷川憲正 総務大臣政務官から来賓祝辞が述べられた。引き続き、CIAJ 篠塚勝正会長、CSAJ 和田成史会長、主催 3 団体専務理事が加わり、8 名による CEATEC JAPAN 2009 の幕開けを飾るテープカットがとり行われ、その後は和やかな歓談の場がもたれた
- (8) デジタルネットワークステージでは、3D テレビ時代の到来がいちはやく紹介されたほか、高精細・高付加価値を有する次世代 TV、デジタル放送の未来、様々な次世代ネットワーク技術の進化、AR（拡張現実）を利用した技術・サービス・製品などに注目が集まった。一方、電子部品・デバイス&装置ステージでは、高機能・軽量小型化を実現した各種部品・デバイス、各種センサ技術をはじめ、成長期待が高い太陽光発電や燃料電池、LED 関連、HEV/EV に関する技術など、様々な製品につながる未来を実感させ

る展示が並んだ。なお、展示会場では、全体を通じて「グリーン IT」「省エネ」「創エネ」といった今後の日本の産業界を支える様々な環境技術が数多く紹介され、IT・デジタル技術の力で CO₂削減に寄与していく姿勢が明確に打ち出された。また、環境技術、次世代ネットワーク、モバイルコンピューティング、ライフコンテンツなどをテーマとする特別展示や技術者を対象とするテクノロジーセミナー、学生と出展企業をつなげる仕事研究サポートなどの企画が行われ、多くの来場者を集めた。

- (9) 会期最終日の土曜日は、一日の入場者として、過去最高を記録し、一般来場者にも認知度が向上したものと思われる。平日の来場が難しいビジネスマン・学生などが多数来場し、工作教室や科学実験ショー、体験教室などの企画には、親子連れの姿が目立った。
- (10) コンファレンスは、展示では得られない最新情報を提供することを目的に開催しキーノートスピーチを含め、合計 90 件を実施し、聴講者数は、延べ 9,977 名となり、非常に熱心に聴講いただいた。また、本年は、グリーン IT の国際会議を誘致することができた。
- (11) 来場者数については、3 日目の 8 日（木）に日本列島を縦断した台風 18 号の影響により、当日は、急遽午後 1 時からの開場、コンファレンス中止の措置をとった結果、8 日（木）と 9 日（金）は昨年実績を下回る結果となったが、10 日（土）には過去最多の来場があり、合計 150,302 人の来場となった。

2-2. 「Inter BEE 2009」

- (1) Inter BEE 2009 は、2009 年 11 月 18 日（水）より 11 月 20 日（金）までの 3 日間、千葉市・幕張メッセにおいて開催した。
- (2) Inter BEE 2009 は、「Inter BEE 2009 実行委員会」が中心となって本展示会の実施計画を審議・立案し、本協会にて運営した。
- (3) 放送機器ビジネスは、国内の放送局の地上デジタル放送向け設備投資が一巡し、番組制作プロダクションに向けての提案が中心となり、ビジネス規模が一旦、縮小傾向を示している。さらに、今年度は、10 月に開催した CEATEC JAPAN 同様、経済環境の影響から、開催規模縮小を余儀なくされると予想をしたが、出展者数は対前年比 104.5% の 816 社で過去最多となり、海外出展者数も過去最多の 466 社となったが、出展小間数は対前年比 70.7% の 1,391 小間と縮小した。
- (4) Inter BEE 2009 のオープンに先立ち、開催初日の 11 月 18 日（水）午前 9 時 40 分より展示ホール 5 の 2 階（中央エントランス）において開会式を実施し、社団法人電子情報技術産業協会の大山高理事より主催者挨拶の後、来賓の日本放送協会（NHK）専務理事・技師長の永井研二氏、社団法人日本民間放送連盟（NAB-J）常務理事の工藤俊一郎氏（企画部長 竹内淳氏による代読）より、来賓祝辞が述べられた。引き続き 2009 年国際放送機器展実行委員会の臼井修司委員長（日立国際電気）による開会宣言の後、Inter BEE Content Forum に登壇のジョン・ルイス氏（ニュージーランド・WETA デジタル Research Programmer/マッシー大学 准教授）、モーテン・リンドバーグ氏（ノルウェー・Lindberg Lyds As (2L) President）の 3 名と来賓と主催者を加えた 6 名によるテ

ープカットが行われ、Inter BEE 2009 が開幕した。

- (5) 本年は伝統的な放送技術に加え、通信、IT、音響、ライティングなど広範な技術分野を俯瞰できる総合的な展示により、HDTV を核とする最先端の放送・映像・音響機器、IT・通信等を活用した新たなワークフローをはじめ、様々な変化に対応するアプリケーションやソリューションなどが一堂に会し、放送の進化と変化を体感できる日本で唯一の大型展示会となった。また、近年の放送のデジタル化に伴い、本開催より、放送・映像分野の立場から新しい産業分野へのアプローチを展開すべく、「IPTV、Mobile TV、クロスメディアゾーン」を新設、デジタル完全移行後のモバイル TV ビジネスを確認できる場となるほか、デジタルサイネージ、デジタルシネマ、3D をテーマとしたパビリオン展示も展開し、注目を集めた。
- (6) 展示規模が 3 割減となるなか、来場者数としては、約 1 割減にとどまり、業界関係者の Inter BEE に対する期待の高さを感じられた。また、海外来場者は昨年比 3 割増と、会場内で目立っていた。
- (7) 大きな変貌を遂げつつある世界的な技術潮流に呼応し、従来以上に広範な技術分野を俯瞰できる総合的な技術展示会を目指す『Inter BEE』では、機器展示と密接に連携したコンファレンスを開催した。『Inter BEE Content Forum 2009』では、“ユーザ視点によるコンテンツ創造への期待”をテーマに掲げ、映像・音響各分野で活躍する第一人者をプレゼンターに迎え、コンテンツビジネスの最新動向が議論されたほか、『Inter BEE チュートリアル・セッション』では、放送・映像・音響業界の若手人材や興味を持つ学生を対象に、最先端技術トレンド、最新機器・システムの活用法、コンテンツ制作手法などを紹介し、次世代育成に寄与した。また、『第 46 回 民放技術報告会』、『第 11 回 NAB 東京セッション』、『全映協フォーラム 2009 千葉大会』、『第 11 回 DigiCon6 Pre-Conference』、『IPTV Summit/クロスメディアゾーン オープンセミナー』が同時開催され、さまざまな最新技術動向が多岐にわたり情報発信された。
- (8) 開催終了までの間に 4 回のプレスリリース配信を行い、報道関係者は過去最多の 415 名（内海外 24 名）が取材に訪れ、合計で 294 件の記事掲載や映像として Inter BEE の情報が発信された。

2-3. 「EDSFair 2010」

- (1) EDSFair 2010 は、2010 年 1 月 28 日（木）より 1 月 29 日（金）までの 2 日間、横浜市・パシフィコ横浜において開催した。今年度の開催テーマは「Web にない“新しい”が、ここにある。」とした。
- (2) EDSFair 2010 は、主催する社団法人電子情報技術産業協会 EDA 技術専門委員会と連携し、「EDSFair 2010 実行委員会」が中心となって本展示会の実施計画を審議・立案し、本協会にて運営した。
- (3) 半導体設計の分野は、性能向上、リスクコスト削減、低消費電力化、ソフトウェア搭載などに対応するため、先進的な技術開発が世界中で進められている。今年度は、経済環境の厳しい中、出展者数計 113 社、出展小間数計 231 小間、対前年比で出展者数 79.0%、出展小間数 72.9%となったが、来場者数は対前年比 102%の 9,300 名と増加した。

- (4) 会場内での特設ステージでは、半導体ベンダの Green 戦略、全てが分かるローパワー設計技術、ソーラーや車載で注目されているパワー・高耐圧系アナログ回路設計と、地球環境に優しい設計技術についてエグゼクティブの方々が講演した。例年好評の上流設計技術は、組込みシステムにおけるソフトウェア開発への ESL 活用について、日本を代表する技術者の方々が、初心者にもよく分かるように議論をした。今回、本展示会が 10 回目開催となることを記念して、10 周年特別企画を開催した。第一線で活躍中のエンジニア、設計・開発を率いる管理職の方々、さらに若手エンジニアの方までを対象とした幅広い内容の企画により、いずれのセッションも 200 名前後の聴衆を集めた。
- (5) 出展者セミナーは、合計 84 セッションを実施し、延べ聴講者数は 2,337 名であった。
- (6) エンジニアが注目する最新技術やトピックスに関する展示をまとめた特別ゾーンとしては、FPGA 関連の出展者を集めた、「FPGA ビレッジ」や、普段接することが少ない国内外のベンチャー企業のソリューションを集めた「新興ベンダエリア」、産学官の技術交流を深める大学の研究発表の場となる「ユニバーシティ・プラザ」、さらには、EDA 開発に携わる国内のベンチャー企業が一同に集結し、日本企業ならではの「ものづくり力」を活かした技術や製品をアピールする、「JEVeC ビレッジ」を設置した。
- (7) 海外出展企業を見学希望する来場者に、日本の設計技術・EDA 技術の第一人者が、ブースへ同行訪問し、各社の技術紹介・質疑応答を日本語でサポートする「新興ベンダ・ガイド・ツアー」を実施した。出展者である新興ベンダ、来場者であるツアー参加者からも大変好評であった。

2-4. 「最先端 IT・エレクトロニクス展 CEATEC JAPAN 2010」

CEATEC JAPAN 2010 は、2010 年 10 月 5 日（火）より 9 日（土）までの 5 日間、千葉市・幕張メッセにおいて開催予定。情報発信の強化とビジネスに役立つ展示会を目指し、一層の改革を行うべく、次年度開催に向けて各種施策を検討した。

3. 海外との連携活動及び広報活動

3-1. 海外関連展示会主催団体等との連携活動

当協会の主要事業である展示会の国際化促進を図るため、次の海外関連展示会の主催団体等と、広告、プレスコンファレンス、出展誘致など相互協力を行うとともに、各展示会の情報収集活動を行った。

(1) CEATEC JAPAN の海外広報活動

1) IFA 2009 ベルリンショー（平成 21 年 9 月 4 日～9 月 9 日／ドイツ・ベルリン）

会期中の 9 月 5 日に IFA プレスセンターにおいて、CEATEC JAPAN 2009 のプレスコンファレンスを開催し、開催概要等の資料を来場プレスに配布した。

2) CISIS2009（第 7 回中国国際ソフトウェア・情報サービス交易会）

（平成 21 年 6 月 18 日～6 月 21 日／中国・大連市世界博覧広場）

会期中にブース出展し、CEATEC JAPAN 2009 の PR 活動を行い、開催概要等の資料

を来場者に配布した。

3) 2010 International CES (平成 22 年 1 月 7 日～10 日／米国・ラスベガス)

会期中の 1 月 8 日にホテルベネチアン会議室にて CEATEC JAPAN 2010 プレスコンファレンスを開催し 45 名の記者が出席した。CEATEC JAPAN の概要を説明した後、CEATEC JAPAN の記録映像と米国メディアパネルイノベーションアワード受賞製品映像の 2 種類のビデオ映像により CEATEC JAPAN の内容を紹介した。CEATEC JAPAN 2010 の開催概要及び CEATEC JAPAN 2010 オフィシャル メディア ツアーの案内を会場で配布し、取材のための来場を依頼した。

4) 台湾・TEEMA (Taiwan Electrical and Electronic Manufactures' Association)

出展募集説明会 (平成 22 年 3 月 5 日／台湾)

CEATEC JAPAN 2010 の出展に関心のある TEEMA 会員企業及びプレス関係者に対して、出展募集説明会を開催し、CEATEC JAPAN 2010 の出展募集関連資料、プレゼンテーション資料等を配布した。

(2) Inter BEE の海外広報活動

1) NAB (National Association of Broadcasters) 2009 (平成 21 年 4 月 20 日～23 日／米国・ラスベガス)

会期中に Inter BEE のブースを開設してプロモーションを行った。

3-2. 海外における JEITA 主催の展示会等への支援活動

(1) 「AEECC (Asia Electronics Exhibition Cooperation Conference)」

平成 21 年 6 月 22 日・23 日の 2 日間、台湾・台中市にて AEES 主催 5 団体〔JEITA (日本)・TEEMA (台湾)・KEA (韓国)・CEAC (中国)・HKTDC (香港)〕による会議を開催した。本協会が参加し、各団体が自国で開催する展示会の状況報告と相互協力強化について意見交換を行った。次回は、韓国で開催することとした。

(2) 「AEES 2009 (Asia Electronics Exhibition in Shanghai 2009)」

平成 21 年 11 月 11 日～13 日までの 3 日間、中国・上海市「上海新国際展覽中心」において上記 5 団体共同主催による展示会を開催し、JEITA 広報ブースを設置して CEATEC JAPAN 2009 にて実施した米国メディアパネルイノベーションアワード紹介パネルを展示するとともに、JEITA の概要を来場者へ配布した。

4. 受託事業

事業名「平成 21 年度コンテンツ国際取引市場強化事業 (ソフトとハードの連携による新しいライフコンテンツ創出促進事業)」

本事業は、3 年目となる継続事業で、国が策定した「コンテンツ分野の技術戦略マップ」の認知向上とマップ内で示されているコンテンツ技術の将来像を提案することで、産業創出の促進を目的としてパビリオン「ライフコンテンツフロンティア」(40 小間)の展示及び関連技術に関するシンポジウムの開催を CEATEC JAPAN 2009 会場において行った。パビリオンは、国の研究機関を始め 7 つの出展者ブースとテーマステージを

展開し、コンテンツ技術の新たな可能性を訴求。ロボット技術と音楽・通信ソフトのコラボレーションなど、多くのメディアや来場者の注目を集めた。

5. フォーラム及びセミナーの運営事業

JEITA 及び関連団体が主催する次のフォーラム・セミナーの運営を行った。

(1) 電機・電子 5 団体 環境フォーラム 2009

会 期：2009 年 6 月 4 日（木）～5 日（金）

聴講者数：延べ 235 人

会 場：砂防会館 別館 1 階 淀・信濃

主 催：社団法人 電子情報技術産業協会（JEITA）

財団法人 家電製品協会（AEHA）

情報通信ネットワーク産業協会（CIAJ）

社団法人 日本電機工業会（JEMA）

社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会（JBMIA）

(2) 電機・電子 4 団体環境セミナー

「REACH 及び欧州／中国 RoHS の最新動向と電機電子業界の対応について」

東京会場：2010 年 3 月 4 日（木）日本教育会館 ホール 聴講者数：延べ 217 人

大阪会場：2010 年 3 月 8 日（月）中央電気倶楽部 ホール 聴講者数：延べ 79 人

主 催：社団法人 電子情報技術産業協会（JEITA）

一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会（CIAJ）

社団法人 日本電機工業会（JEMA）

社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会（JBMIA）

6. 展示会関係資料の発行

次の展示会関係資料を発行し、関係方面に広く無償配布した。

1) 「CEATEC JAPAN 2009 報告書」（和文版・英文版）

2) 「EDSFair 2010 ガイドブック及び実施報告書」（和文版）

以 上